

研究課題名「カルバペネム耐性 *Enterobacter cloacae* complex の分子疫学と耐性機構、保菌のリスク因子に関する研究」に関する情報公開

1. 研究の対象

2012年1月から2017年12月の間に当院入院中に、カルバペネム耐性エンテロバクタークロアカコンプレックスによる感染症もしくは保菌と判断され、感染対策の実施を受けた患者

2. 研究目的・方法・研究期間

本研究では、治療の切り札的な薬剤であるカルバペネム系抗菌薬に耐性の腸内細菌科細菌（CRE）が世界的に大きな問題になっています。その中でも、日本では *Enterobacter cloacae* complex（エンテロバクタークロアカコンプレックス）の報告頻度が最も高いと判明しています。そのためカルバペネム耐性エンテロバクタークロアカコンプレックスの薬剤耐性機序と分子疫学、保菌のリスク因子を明らかにすることで、感染対策上有用な方策を見出すことを目的とします。研究期間は実施承認日から2019年12月31日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

患者情報：

性別、生年月日、入院日、退院日、退院時死亡の有無、検体採取日、3か月以内の入院歴、3か月以内の抗微生物薬投与歴、培養採取後30日以内死亡の有無、培養採取後7日以内のICU入室歴、検体種類、検体提出部署、抗菌薬感受性結果、中心静脈カテーテルの有無、経鼻胃管チューブの有無、PTCDチューブの有無、腹腔ドレーンの有無、胸腔ドレーンの有無、膀胱留置カテーテルの有無、気管切開の有無、挿管の有無、血液透析の有無、既往歴、肝硬変の有無、肝不全の有無、慢性肺疾患の有無、慢性腎障害の有無、心不全の有無、心筋梗塞の有無、膠原病の有無、褥瘡の有無、神経疾患の有無、移植医療の有無、糖尿病の有無、泌尿器系の問題の有無、悪性腫瘍の有無、外科手術既往の有無、HIV感染の有無

菌株の情報：

分離検体名、薬剤感受性検査結果

4. 外部への試料・情報の提供

なし

5. 研究組織

研究責任者

名古屋大学大学院医学系研究科 臨床感染統御学・教授・八木 哲也

研究分担者

名古屋大学大学院医学系研究科 臨床感染統御学・大学院生・手塚宜行

名古屋大学大学院医学系研究科・特任助教・井口光孝

名古屋大学医学部附属病院 中央感染制御部・助教・森岡悠、冨田ゆうか

共同研究者(既存試料・情報の提供のみを行う機関)

なし

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。ただし、学会発表や論文出版の後ではデータを除去できないことがあります。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞 65

名古屋大学大学院医学系研究科

臨床感染統御学 手塚宜行 (連絡先：臨床感染統御学 電話 052-744-2955)

研究責任者及び研究代表者：

名古屋大学大学院医学系研究科 臨床感染統御学

教授 八木 哲也